

皇軍（天皇の軍隊）の南京大虐殺

虐殺は 10 数万人から 20 万人

日本は宣戦布告なしで中国の首都、南京を攻撃し、国際法を無視して南京を占領すると敗残兵狩りと称して、元軍人と見なされた多くの市民農民を連行して集団的に虐殺した。

東京国際軍事裁判の判決は「日本軍が占領してから 南京とその周辺で殺害された一般人と捕虜の総数は、20 万人以上であった・・・」としている。

また、1993 年(平 5) 家永三郎第 3 次教科書裁判の高裁で「南京大虐殺」南京での「婦女への暴行」の文部省の検定を違法としたことが翌年確定した。

その後、虐殺否定派の教科書の「虐殺はウソ」のキャンペーンが行われたが、「南京戦での 100 人斬り競争」はウソ、「虐殺の被害者の訴え」はウソと言う虐殺否定派の裁判は何れも彼らが敗れた。

南京の川岸を埋める中国軍民の死体の山



大月書店「写真図説 日本の侵略」より

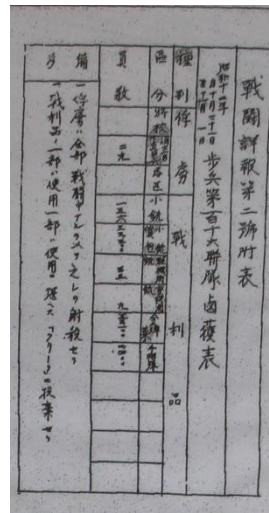
南京市内で物資を略奪する日本兵



ほるぷ出版「写真記録 日本の侵略: 中国 朝鮮」より

大虐殺などは何故起こされたか

日本軍は南京の前の上海の戦いで、中国軍の強力な抵抗で苦戦し、多くの犠牲で 3 ヶ月後、漸く占領した。この仕返しの気持ちが非常に強かったし、南京占領は初め予定していなかったので食糧等を現地調達 = 略奪で補給した。



上海戦での戦闘詳細、国際法に違反する「捕虜の射殺」が公然と書かれている。これは上層部に提出する。



南京の難民から中国兵とおぼしき者を狩り出す日本軍憲兵。日本軍は軍事裁判を省略して集団処刑。(大月書店 「写真図説 日本の侵略」より)

略奪・放火と強姦

南京在留外国人のつくった「南京国際救援委員会」の調査では、南京城内の建物の 73% が略奪の被害。市全体の建物の 24%、南京近郊の建物の 40% が焼かれたと述べている。世界から最も非難されたのは女性に対する暴行だった。ドイツ人ジョン・ラーベは自分の会社の社長あての手紙の中で「約 2 万人中国女性が強姦された」と書き送っている。



南京の平和な市民が射撃訓練の的にされ、刀で切られ、石油で焼き殺され、これは「生き埋めにされているところ」、中国の小・中教科書で述べている。

(ほるぷ出版 写真記録 『日本の侵略: 中国 朝鮮』より)